

SYOHEI ニュース 令和6年11月号

・・・私の趣味・・・

今年 夏油高原ヒルクライムというロードバイク(自転車)の大会に出た。

坂登りなので、春から5キロ減量した。米の代わりに豆腐と納豆を食べた。結果は完走290人中193番と頑張った。初めて他の人と走った。



自宅からはバイクでひめかゆ(元スキー場)30分、国見平スキー場まで60分、夏油高原スキー場まで2時間で行ける。休まずに行けるようになった。

サップ(ボートに立ってオールで漕ぐもの)を7・8年前からやっている。ネットで買ってユーチューブで技を見て、胆沢ダムの下沼で遊んでいる。うちの犬(ラブラドル)も以前は水が嫌いだったが、今は泳ぎが大好きだ。この前、ドックサップレースがそこであった。犬を乗っけてのレースで、大型犬の部に出てビリになった。その後、長くて細いスピードのするサップを買った。10月にまたレースがある。



冬は50歳から始めたスノーボードが楽しみ。3か所のスキー場の大会に出たことがある。成績は中ぐらい。

私より年長のボーダーは、ほぼいない。



数年前から、脊柱管狭窄症のために右足にしびれと痛みがある。

湿布して薬を飲んでいる。

もう少しでいろんなことができなくなるだろう。今だけと思って一生懸命遊んでいる。



まごころ病院副院長 八鉏 誠

石包丁 (奥州遺産 No.85)

古代において「水陸万頃」とたたえられた胆沢平野での稲作の歴史は古く、2千年前の弥生時代中期にははじまっていたと考えられます。清水下遺跡で見つかった石包丁はその証拠の一つです。

石包丁 長さ19.6cm、幅5.0cm、厚さ0.7cm、重量108g



中央の穴に紐をつけて指を通して持ったという

石包丁は包丁の名を持つ調理器具ではなく、稲の穂を摘み取るための道具です。縞模様に浮かぶ石は阿武隈山地(宮城県～群馬県)が産地と思われる粘板岩で、緩やかに湾曲した背面などから東北地方南部で製作され、この地にもたらされたと考えられています。



胆沢文化創造センター内に展示

大谷選手の成績ボード (R6.9.30 現在)

打率310② 本塁打54① 打点130① 盗塁59②

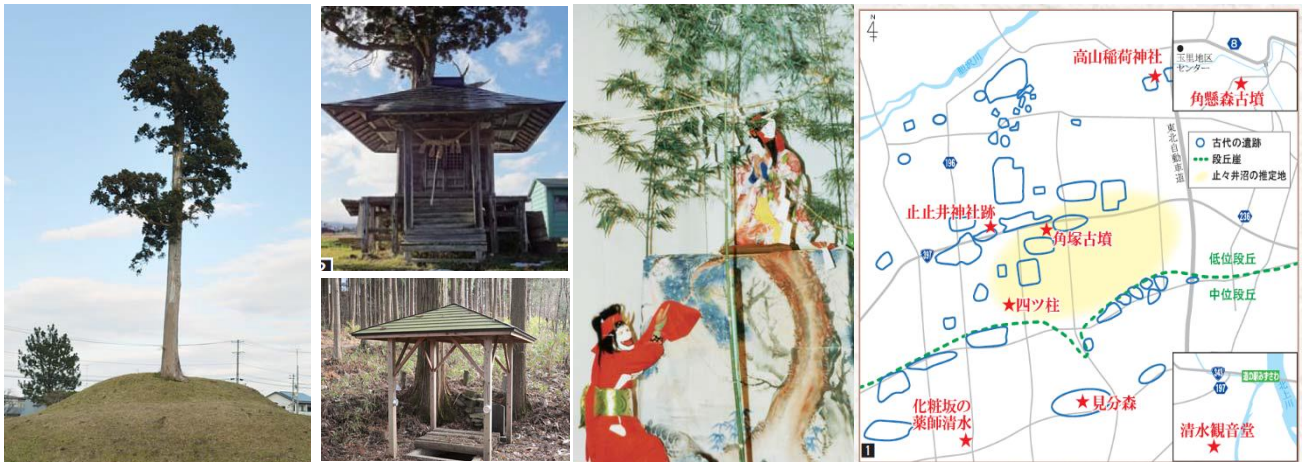
6.10.1 ナ・リーグ本塁打王・打点王のタイトル獲得

6.10.2 9月の月間 MVP 受賞 通算5度目

『SYOHEI ニュース』は市医師養成事業関係者の情報紙です。
令和6年10月25日発行 奥州市医療局医師確保推進室
〒023-0053 奥州市水沢大手町3-1 TEL0197-25-3833

※市医療局HPにバックナンバーを掲載しています。 第55号

さよ姫伝説を旅する・・・奥州遺産No.100：101・・・ときを越え受け継がれるもの・・・



日本最北の前方後円墳「角塚古墳」：高山稲荷神社：化粧坂の薬師清水：神楽の演目「高山」さよ姫が大蛇と対峙する場面：

「胆沢の高山に、かもん長者がおりました。その妻はとても欲深く、欲が高じて大蛇に化身し、毎年若い娘を贅に差し出すよう要求しました。ある年、『さよ』という名の娘が、贅として買われてきますが、さよ姫は法華經の功德をもって大蛇を成仏させ、改心した大蛇の力を借り、生き別れた母と再開するのです。」

神楽の演目にもなっている、かもん長者とさよ姫の物語。水沢佐倉河から胆沢南都田にかけては、伝説の名残をとどめる地名が数多く残されています。長者の住まいがあった「高山」、さよ姫が故郷を見分けた「見分森」、化粧を直した「化粧坂」、贅を供えるための櫓を組んだ「四ツ柱」、成仏した大蛇の角を埋めた「角塚」など。これらの伝説を地図上に落としていく。さらに古代の人々の生活跡である遺跡を重ねていくと、いずれも扇状地の低位段丘には、人の住めない沼地や湿地が広がっていたと推測できる。大蛇が住まいしたという伝説の止々井沼も、こうした沼地や湿地のひとつ、あるいは集合体だったかもしれない。

沼地を改良し、さらに、茂井羅堰に集約される用排水施設を整え、現在に見られるような水田地帯の原型が出来上がった時期と、さよ姫伝説が完成した時期は、ともに江戸時代ごろと考えられている。さよ姫の伝説が語る蛇退治は、湿地を克服し水田化していったこの地の米作りの歴史を現代に伝えているともいえるのだろう。ときを越えて人々の心をつかむさよ姫の物語。今もなお市内の至る所にその足跡は残る。



町民劇場で最高観客を記録した「小夜姫物語」：小夜姫を祭る清水観音堂：離れた地にも伝説は残る「角懸森古墳(江刺玉里)」 広報おうしゅうの「奥州遺産」、平成21年1月と同年2月の2回に分けて掲載された。